

b.

ものづくり

「ものづくりワークショップ」とは、道路や公園、建物といった主として公的な施設の計画づくりに関わるワークショップのことを指しています。

神戸で最初の本格的なワークショップである「上沢二丁目公園」や市内各地で実施されてきた「細街路整備」、震災復興区画整理や再開発エリアでの公園や広場づくりなどが代表例として挙げられます。

このようなワークショップでは、一般的に一つの結論（計画案）が導かれる必要があります。ところが公園ひとつを例にとっても人々の思いはさまざまです。いる／いないといった根本的な問題から、遊具、植栽、照明、維持管理に関わることまでいろんな考え方があり、いろんな決め方があり、いろんな結論があり得ます。そのためのとっかかりとして、参加者がお互いの考えを知り合う場を創出するワークショップはすぐれた手法だと言えるでしょう。さて、相互理解の果てに待ち構えているのが結論とその決め方です。複数の提案や計画案をどうやって一つに絞っていくのか。ここで、ものづくりワークショップは話し合いのプロセスから決定のプロセスへと大きな跳躍を迫られます。いかに意思決定を行うか、これが、ものづくりワークショップの大きな課題のひとつと言えます。

他方、ものづくりワークショップが新たに切り拓いてきた一面として、従来、設計士やデザイナーといった専門家だけが担ってきたプロセスをすべての人に解放したという点があります。デザイナーやプランナーがあらかじめ書いた「絵」に対して意見を言ったり、提示された複数案の中から選択するといった消極的な参加から、「白紙から一緒に描きましょう」という主体的な参加へと、ものづくりワークショップはその枠組みを大きく広げてきました。ただし、そのためには、専門家が頭の中（ブラックボックス）で行っていたプロセスを誰もが参加できるような形にする必要があり、プログラムをつくる上で工夫すべき点もそこにあると言えます。

山手4・5丁目階段づくりワークショップ

経緯

このワークショップは、垂水区の東部、家屋の密集した山麓市街地である山手4・5丁目に位置する階段状道路を対象に、地域住民による整備計画案の作成を目標として企画されました。実施にあたっては、全5回（当初予定4回、後に1回を追加）のプログラムが導入されました。神戸市住宅局（現都市計画総局）の呼びかけにより、同局と山田地区、山手泉が丘西部の両自治会の共催により行われました。なお、整備は密集住宅市街地整備促進事業*1の補助事業として実施されています。

参加者

第1回～第5回の地元参加者は、それぞれ16名、28名、16名、21名、17名、全参加者数は39名、のべ参加者数は98名でした。全参加者数39名の内、整備対象の階段から直接アプローチする住宅に居住している参加者は56%（22名）でした。年齢に関しては30歳代から80歳代まで幅広い層の参加者がみられましたが中心は60歳代で、全体の約半数を占めています。全体の傾向としては、高齢層に偏った構成であったといえるでしょう。性別に関しては、男性13名、女性26名で、女性参加者が男性の倍を占めています。

実施体制

ワークショップは、本業務を受託しているコンサルタント、神戸市住宅局、設計業者、垂水区役所、垂水建設事務所、神戸まちづくりワークショップ研究会、ワークショップ隊*2、学生ボランティアをスタッフとして運営されました。



整備前の階段

*1密集住宅市街地整備促進事業

老朽木造住宅が多く、公共施設が不足している密集市街地において、住環境整備を総合的に進める事業。老朽住宅の除却や建替促進、道路・公園などの公共施設整備を行う。

*2ワークショップ隊

地域でのまちづくり活動を支援する「神戸地域コミュニティパワーアップ事業」で雇用された人たちが、「ワークショップ隊」として神戸市内で行われるワークショップ運営のお手伝いをする。

ワークショップの流れ

第1回W.S./階段の現状を知ろう

2002年10月5日(土) 午前10:00～午後12:30

- 階段の現状認識
- 現場での確認

第2回W.S./新しい階段への思い、希望を語ろう

2002年10月19日(土) 午前10:00～午後12:30

- 整備課題の発見・共有
- 整備への思い、希望のまとめ

第3回W.S./階段のデザインを考えよう

2002年11月16日(土) 午後1:30～午後4:30

- 思い、希望に対する専門家・管理者からの回答
- 階段各部のデザイン・イメージの検討

第4回W.S./実際の階段を体感してみよう

2002年11月30日(土) 午後1:30～午後3:30

- 計案を現場で確認
- 植栽の設置・管理や着工・完成イベントについての検討

デザイン検討会(第5回W.S.)

2003年2月22日(土) 午前10:00～午後12:30

- 階段の新旧(整備前と計案)比較
- デザイン要素
(各部の素材、模様、色彩など)の決定



整備後の階段

第1回

DATA
 日時：2002.10.5(土)
 会場：高丸地域福祉センター
 参加者：地元16名
 スタッフ19名

SCHEDULE

09:30 受付

30 min.

・名札兼自己紹介カード配布



自己紹介カード(名札)▶

10:00 はじめに

20 min.

・あいさつ～趣旨説明～プログラム紹介
 ・スタッフ紹介
 ・グループ分け

10:20 プログラム1

60 min.

階段まわりの状況を思い出してみよう
 ・自己紹介
 ・「階段イメージマップ」づくり
 ～グループ別発表



◀イメージマップの成果品

11:20 プログラム2

55 min.

階段を実際に見に行こう
 ・「階段イメージマップ」の確認
 ・グループごとに簡単にコメント
 ・「階段数字当てクイズ」に挑戦



クイズの様子▶

12:15 おわりに

15 min.

・次回予告
 ・感想記入～現地解散

■階段の現状を知ろう

□参加者について

第1回ワークショップは、プログラムの前半を集会所(地域福祉センター)、後半を階段現地で行いました。事前の説明会での参加率が高かったために広報にあまり力を入れなかったことが災いし、運営側が予想していたほどには参加者が多くありませんでした。また、整備の対象となる階段と会場が離れていたこともその要因のひとつであったと思われます。

□ワークショップへの関心を高めるために導入プログラムとして、参加者各々の記憶を頼りに階段の風景を思い出し、地図に描きこむ「イメージマップ」の手法を用いました。単純に現況図を見て確認するよりも、自らの頭で情報を再現し、同時に記憶のあやふやな点を明らかにすることができるなど、最初のプログラムとして適切な効果があったと思います。また、グループ内で各人の記憶を交換しあうという作業はアイスブレイクの役割をも果たしていました。最後には、階段に対する客観的な情報を提供することを目的に「階段数字当てクイズ」を実施しました。「段数」「標高差」「延長」「最大蹴上げ」「マンホールの数」についてそれぞれ五択を用意し、参加者には「旗」を使って解答してもらいました。階段自体への関心を高めるという意味でも効果があったようです。

ワークショップ

第2回

DATA
 日時：2002.10.19(土)
 会場：高丸地域福祉センター
 参加者：地元28名
 スタッフ15名

SCHEDULE

09:30 受付

30 min. (現地集合)
 ・名札兼自己紹介カード配布

10:00 はじめに

20 min.
 ・あいさつ
 ・「よいところ、気になるところさがし」
 ワークシート配布および説明

10:20 プログラム1

60 min.
 階段のようすを調べてみよう
 ・「よいところ、気になるところさがし」
 ワークシート作成

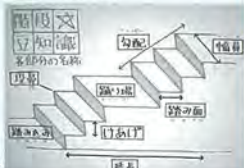


◀階段現地での作業風景

移動/休憩/
 グループ分け
 (20分)

11:20 プログラム2

55 min. 「新しい階段への思い、希望マップ」
 をつくる
 ・趣旨説明、プログラム紹介
 ・前回のおさらい(前回まとめニュースより)
 ・「階段まめ知識」の勉強



「階段まめ知識」
 ・ワークシートのまとめ(グループ単位)
 ・「新しい階段への思い、希望マップ」
 づくり
 ・発表

12:15 おわりに

15 min.
 ・次回予告
 ・感想記入

■新しい階段への思い、希望を語ろう

□当日はあいにくの雨模様

第2回は、集合場所を階段現地に設定したのに天候は雨。にもかかわらず、近隣住民同士が声を掛け合うなど、ワークショップ全5回中最多の28名の参加がありました。予め用意しておいた「旗(=現場に据え置くことのできる目印)」をそれぞれの参加者が階段の「気になるところ」に置き、ポラロイドカメラで「旗」および周辺の写真を撮りました。その場で写真にコメントを書き入れる予定でしたが、小雨が降っていたためその作業は省略し、集会所(地域福祉センター)へ移動した後に行いました。

□「階段まめ知識」の提供

階段整備にあたっての技術的な基礎知識を提供することを目的に、設計担当者による「階段まめ知識」講座を行いました。階段に関する簡単な専門用語や、標準的な寸法などを紹介したところ、その後の話し合いでは、参加者が共通にそれらの用語を用い、スムーズで正確な話し合いの展開に寄与したと思われます。



新しい階段への思い、希望マップ

ものづくり

第3回

DATA

日時：2002.11.16(土)
会場：高丸地域福祉センター

SCHEDULE

13:00 受付

30 min

- ・名札兼自己紹介カード配布
- ・前回まとめニュース配布

13:30 はじめに

45 min

- ・あいさつ～趣旨説明～プログラム紹介
- ・前回のおさらい
- ・「みんなの思い、希望リスト」の提示
（「新しい階段への思い、希望マップ」より）
- ・管理者／専門家からの回答
（技術的、予算的、法的な視点から）

14:15 プログラム1

20 min

- 階段のカたちはこう変わる！
- ・新しい階段のカたちを見てみよう
 - ・質疑／応答



計画案の説明の様子▶

14:35 プログラム2

100 min

- 各部のデザイン・イメージを考えよう
- ・旗上げアンケート
 - ①手すりとスロープ
 - ②車止め
（上部、下部）



実寸のスケールでの表現▶

- ・「植栽、ゴミ箱、ベンチ」について
考えよう～グループ別発表



14:15 おわりに

15 min

- ・次回予告
- ・感想記入～現地解散

■階段のデザインを考えよう

□参加者の意向と管理者・専門家からの回答
前回出された意見のまとめとして、「みんなの思い、希望リスト」を作成し、参加者に提示しました。ファシリテーターが参加者の立場でコメントし、専門家（設計担当者）や管理者（神戸市）がそれに対して技術的、予算的、法的な視点から回答する、という「かけあい方式」で説明を行いました。

□計画案の説明

続いて、設計担当者による計画案の説明を行いました。図面は詳細を省き、要点のみをわかりやすく表示した平面図と断面図を用いました。あわせて、図面には現状の階段と比べてどういった点が改善されるのかという点を記載しました。（しかし後日、一部の参加者に図面上の情報（踏み込み部分のレベルなど）が正しく伝わっていなかったことが判明しました。もっといろんなかたちで提示する工夫が必要であったようです。）

□各部分のデザイン検討

幅員や手すり、スロープ等各設置物などの大きさや位置関係の理解を助けるため、ボールやスロープ幅のロール紙、実物の自転車、車椅子、傘、鞆などを用いて、階段の横断面を実寸のスケールで表現しました。図面だけでは伝達手段として限界がある一方、実寸を示し、自転車など実物を用いた提示の仕方は効果的であったといえるでしょう。

第4回

DATA

日時：2002.11.30(土)
会場：山手4・5丁目
階段現地

SCHEDULE

13:00 受付

30
min.

- ・名札兼自己紹介カード配布
- ・前回まとめニュース配布

13:30 はじめに

10
min.

- ・趣旨説明～プログラム紹介
- ・前回のおさらい
(前回まとめニュースより)

13:40 プログラム1

40
min.

- ・階段のカタチを確認しよう
- ・設計者による新しい階段の紹介
(※ファシリテーターとのかけあいで)
- ・質疑/応答

現場での確認の
ようす▶植栽の検討の
ようす▶

14:20 プログラム2

30
min.

- ・植栽について考えよう
- ・植栽パターンの紹介
(プランター、花壇-1、花壇-2、樹木)
- ・旗上げアンケート①
～植栽パターン～
- ・旗上げアンケート②
～管理への個人の参加意識～

14:50 おわりに

10
min.

- ・今後のスケジュール
- ・イベントやりませんか?
～滝の茶屋の事例紹介～
- ・旗上げアンケート
～イベントの企画・運営への個人の
参加意識～
- ・愛称/アイデア募集のお知らせ

■実際の階段を体感してみよう

□計画案を現場で確認する

新たに計画された踊り場の場所や広さ、段差等を現地に色テープを貼るなどして明示し、スロープや手すり等はロール紙やポールで作った模型を用いて表しました。スロープの幅によって階段部分がどの程度狭まるのかなど、図面や模型では表現しきれない点を実感できたようです。

植栽については、踊り場に設置するという条件の下、どの程度のものならば置けるのか、予め選択肢を用意しておき、それぞれ段ボール箱等を使った模型、実寸大に拡大した低木の写真等を用いて提示しました。実際に現場で大きさや配置を確認しながらの検討が可能であったため、参加者が共通のイメージを持てたのではないかと思います。

□新たなコミュニティづくり

この階段は、ほぼ区間の中央付近でふたつの自治会に分かれています。これまでそのふたつの自治会が共同で何かに取り組んだ事例はなかったといわれていますが、植栽の管理や階段でのイベントの企画・運営等を通じて、このふたつの自治会がつながり、新たなコミュニティ形成に寄与することが期待されます。

第5回

DATA

日時：2003.2.22(土)
会場：階段現地

SCHEDULE

09:45 受付

15 min. ・「新しい階段の計画図」配布

10:00 はじめに

5 min. ・あいさつ～趣旨説明～プログラム紹介

10:05 プログラム1

40 min. デザインを考える前に

- ・WSのおさらいとその後の決定事項～階段の新旧比較(クイズ方式)*2
- ・質疑/応答
- ・今日の検討事項(段鼻の処理、踊り場、車止め、愛称表示)について

10:45 プログラム2

60 min. 各部の具体的なデザインを考えよう

- ・〈旗上げアンケート〉
- ・車止め
- ・愛称表示
- ・踊り場の模様
- ・段鼻の処理
- ・全体イメージの確認



11:45 おわりに

- ・今後のスケジュール
- ・あいさつ

■デザイン検討会

□これまでの経験を踏まえ、開催は現地でのデザイン検討会は階段現地で行いました。またしても雨天でしたが、これまで4回のワークショップでの経験を踏まえ、集会所への移動は行いませんでした。やはり、現地で行う方が参加者が集いやすい上に、特に今回のようにカタチの議論が中心となる場面では、はるかに参加者にイメージが伝わりやすいからです。

□ものづくりワークショップにおける永遠の課題=意向集約

検討会では、階段の踊り場の色やイメージ、付属物(車止め、愛称表示、プランター)等のデザインを「旗上げアンケート」の手法を用いて意向集約を行いました。

特に踊り場のデザインに関しては、いくつかのパターンが考えられますが、ここでは「模様」「素材」「色彩」をそれぞれひとつずつ決めていくという手法を採りました。当然ながら、こうしたデザイン要素は相互に関連しあっているからそれを分解してしまうのはナンセンスなのかもしれませんが、全員でそれを考えていくための手続きとして導入しました。結果は、しかし、適切な事例紹介が不足気味だったこともあり、一部の参加者が素材の検討と模様の検討を取り違えるなど、やや混乱を招いてしまいました。また、「旗上げ」の結果が分散したためにその場で即席に「決戦投票」方式(上位2項で再度「旗上げ」を実施)を採用したことなど、このプログラムに関してはまだまだ多くの課題を残しています。



	今の階段	新しい階段	変化
段数	88段	117段	29段増加
延長	64メートル	64メートル	同じ
標高差	20メートル	20メートル	同じ
マンホールの数	22個	-	-
最大段上げ	27センチ	15センチ	最大12センチ減少
踊り場、踏み込みの数	3箇所	6箇所	3箇所増加
心み面	15センチ	35~45センチ	-
勾配	I 16°程度	18°程度	変化はなし
	II 20°程度	18°程度	2°程度減やかに
	III 27°程度	23~24°程度	3~4°程度減やかに
	IV 22~38°程度	26~27.5°程度	最大10°程度減やかに

■ワークショップその後

全5回のワークショップを終えたあとも、階段の整備をめぐる地元ではいろいろな催しが開催されました。そのいくつかを紹介します。

愛称の募集——「階段の愛称を募集します。素敵な名前を提案してください」

「みなさんこの階段を何と呼んでおられますか？ 長い階段？ 大きな階段？ 今度、新しくなる階段には、みんなに親しまれる素敵な愛称をつけますか？ 階段の上と下、そして真ん中あたりに愛称の提案箱を設置しています。ぜひいい名前を考えて、投票してください！」

着工記念式典の開催——階段の愛称は「山手ふれあい階段」に決定

階段現地にて着工記念式典を開催。あいにくの雨模様でしたが、地域の方々70名以上、その他行政や工業者、コンサルタントを含めると90名以上の方が集まりました。式典では階段の愛称を決める人気投票も行いました。なんと応募総数は100以上！投票の結果、愛称は「山手ふれあい階段」に決定。ビンゴゲームなどで盛り上がったあと、思い出の階段をバックにみんなで記念撮影。



植栽管理のための世話人会の開催——踊り場に緑をおいて潤いを

階段の踊り場部分に設置する植栽についての世話会を数回にわたって開催。「(仮称) 植栽管理同好会」として活動していく予定です。プランターや植栽の種類、管理の仕方について考えました。

完成記念式典の開催——ふたつの自治会による一大プロジェクトの完了

テープカット、くす玉割り、ネームプレートの除幕、愛称提案者への表彰、記念撮影、そして再び地域のみなさんが景品を持ち寄ってのビンゴ大会。新しい階段はたくさんの人でにぎわいました。

真ん中でふたつに分かれていた自治会が協力し合ってきた「山手ふれあい階段」。「これからは階段の掃除などは一緒にやっていきましょう」、「階段ができたのはうれしいけど、何かが終わってしまったみたいでさみしいわ」、「また来年、何か一緒にやりましょうか」。このワークショップの最大の成果は、これらの言葉に集約されるのではないのでしょうか。



□ 短期間・長期間ワークショップ

1ヶ月に1回程度のペースで3~5回程度。期間としては4ヶ月から半年。ワークショップの回数と期間に関してはこのあたりの数値がよく聞かれます。

ただし一日(1回)で終わる短期間ワークショップもたくさんあります。まち歩きなどのイベント的に行うワークショップには多くみられます。多様な人が集まるフォーラムなどで実施される場合もあります。いわゆる「一発もの」です。また、会議中の一部分にだけワークショップを使うお気軽版もあり、「ワークショップ手法」は、知っていれば様々な場面で応用できるワザになります。

短期間で行うワークショップの場合は、限られた時間の中にあれもこれもと盛り込みすぎると、結局消化不良に終わることがあります。かといってプログラムを簡略化しすぎて何も導き出せないと話し合いの充実感が得られません。目的を絞り込んで明解で無理のないプログラムを作ることが求められます。

反対に、長期間に渡ってじっくり何かを作り上げていくようなワークショップもあります。

神戸の事例ではありませんが、地域の集会所設計のプロセスを地元住民とのワークショップで1年以上、十数回にわたって行った設計事務所があります。発注者が行政でなく地元団体だったため、期間のしぼりが無く、年度をまたいだスケジュールが組めました。

見学会の場所決めのワークショップをしたり、プロックを使って立体的にプランを考え、それをその場で設計図にしたり、プログラムは変化に富んでいて、参加者を惹き付けておくための工夫が随所に見られます。

また、ワークショップの様子や進捗状況が丁寧にかつ楽しく書かれたニュースが地域に配布されたことも、参加者の集中力持続に役立ちました。

長期間ワークショップは、期間等の諸条件そして最後まで参加し続けてもらう工夫が必要となります。